

八幡平市の観光振興

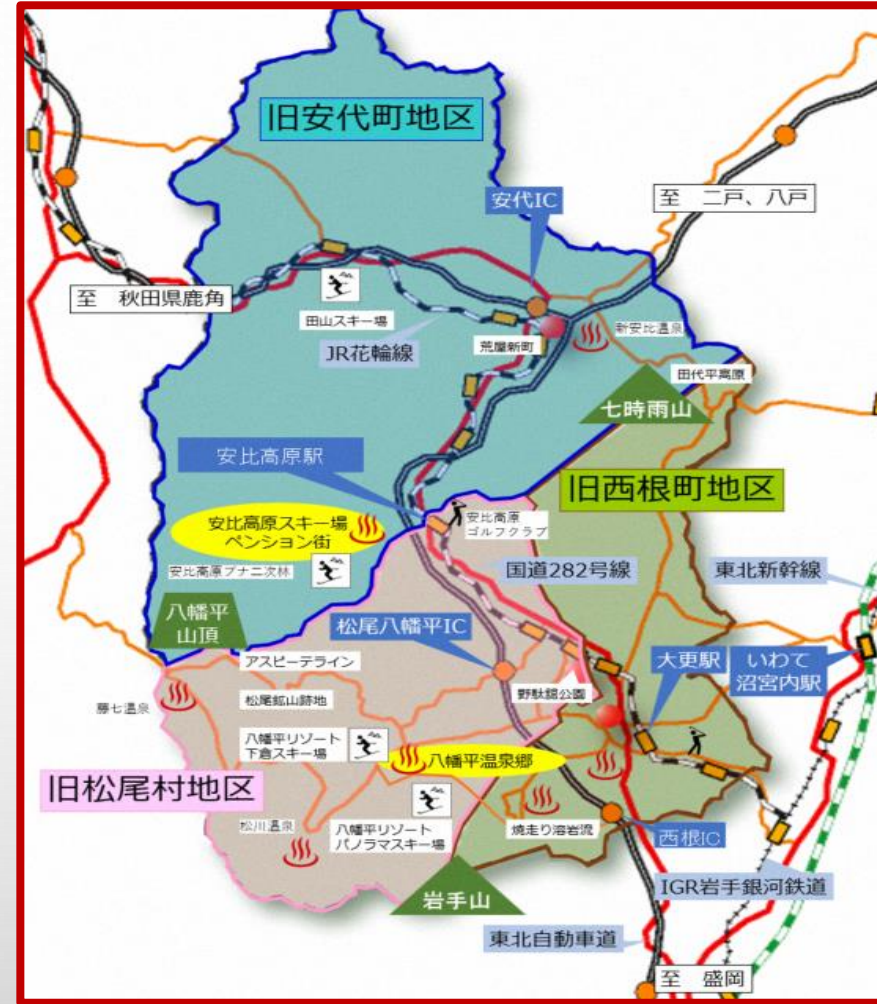
自然を未来につなぐまち NATURAL RESORT 八幡平

産業建設部商工観光課観光振興係

目次

1. 観光資源
2. 観光の現状
3. 第4期八幡平市観光振興計画
4. インバウンド回復に向けた新たな取り組み

1. 観光資源



八幡平市は、県都盛岡市の北西約30キロメートルに位置し、東は二戸市・一戸町・岩手町と、南は盛岡市・滝沢市・雫石町、西は秋田県仙北市・鹿角市と、北は青森県田子町と、それぞれ接しており、秋田県や青森県を含めた北東北3県のほぼ中心に位置しています。

○自然的観光資源



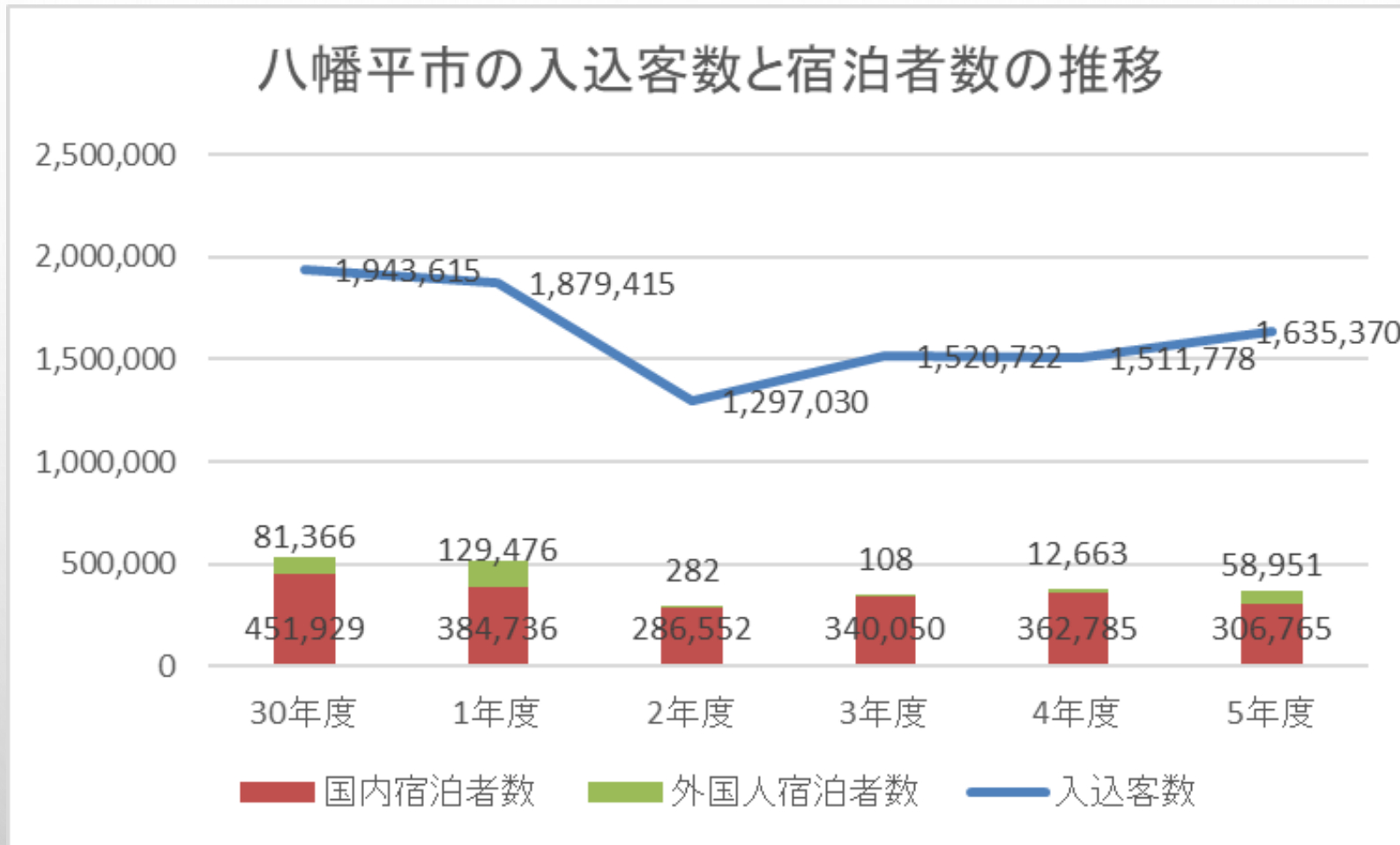
八幡平市には、十和田八幡平国立公園八幡平地域に、二つの日本百名山「岩手山」そして「八幡平」、国指定特別天然記念物「焼走り熔岩流」、新日本百名山に選ばれた「七時雨山」、秘湯「松川温泉」、日本名水百選「金沢清水」、日本の滝百選「不動の滝」等の数々の名勝、観光資源が存在します。火山の集積である八幡平では、種類豊富な高山植物や秋の紅葉が観光客を魅了しています。

○歴史的・文化的観光資源



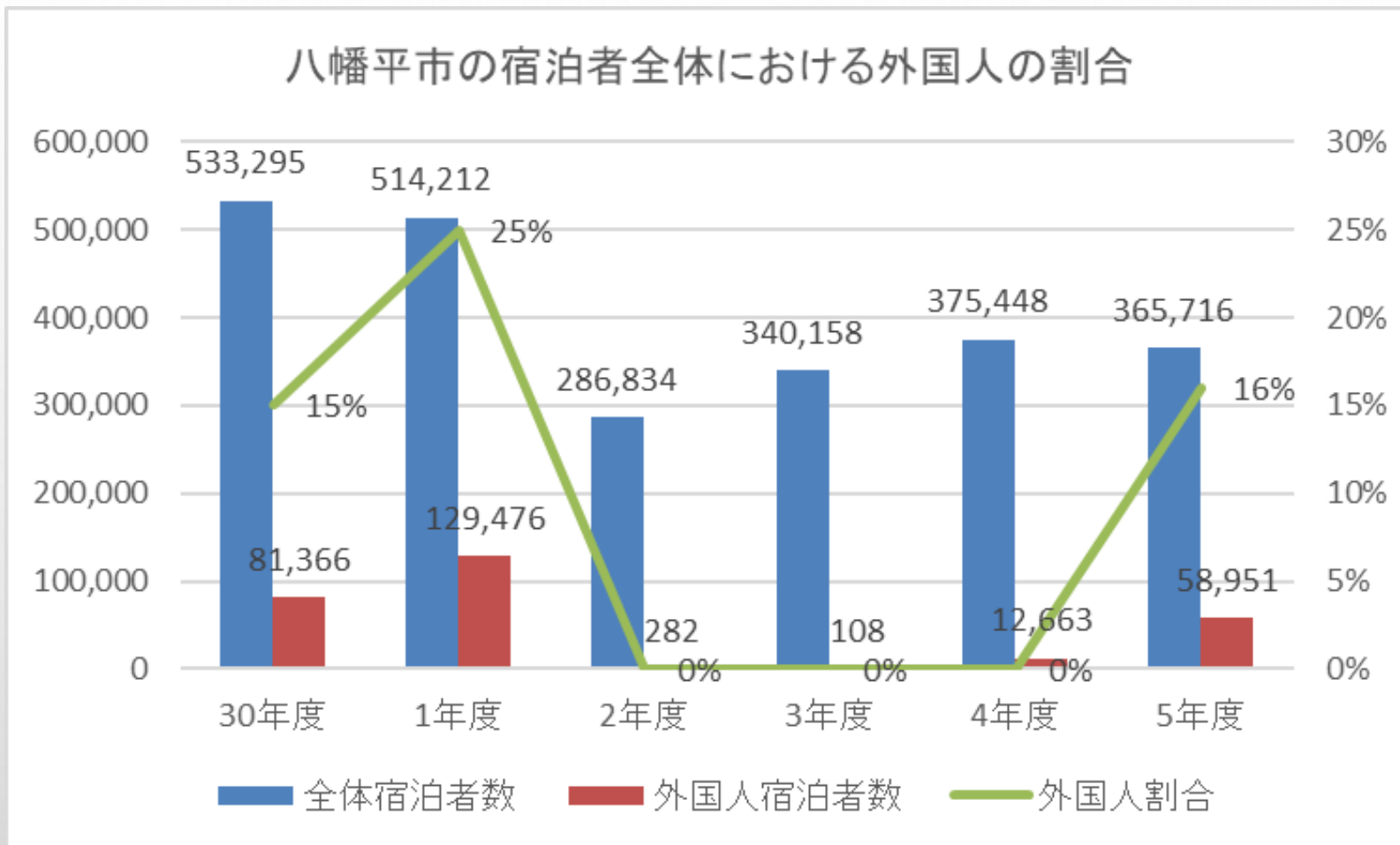
縄文時代のストーンサークル「釜石環状列石」や、古くから牛馬放牧の証が残る「安比高原」、安比川流域に伝わる漆文化、江戸時代の物流を支えた鹿角街道、麴や酒造の発酵食品等、八幡平市の歴史を知る上で欠かせない遺産や文化は、今もなお暮らしの中に息づいています。

2. 観光の現状



八幡平市の入込客数は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年度に入込客数、宿泊者数ともに大きく減少しましたが、徐々にではありますが回復しています。

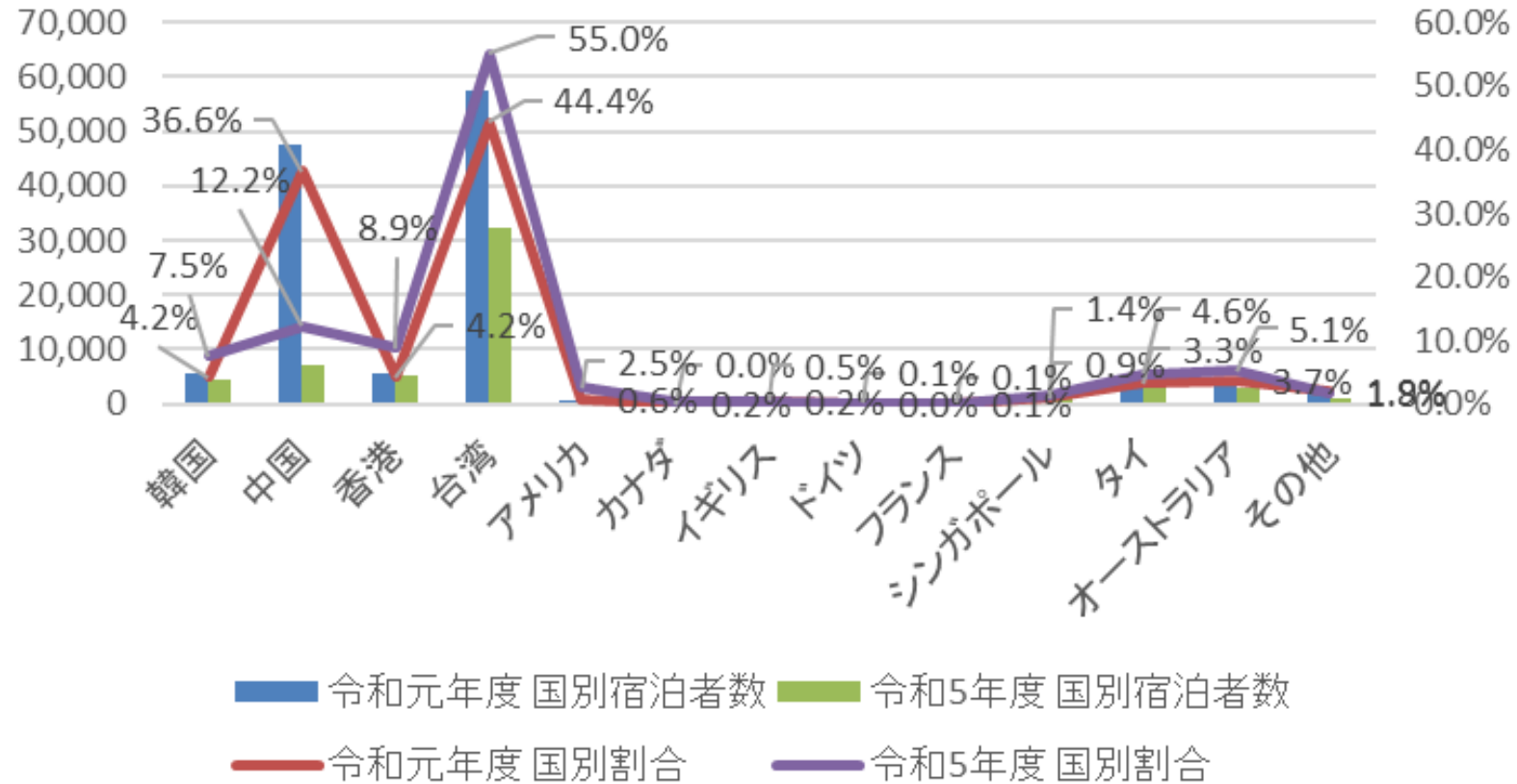
令和4年度から外国人宿泊者数が増加していますが、国内宿泊者数が減少傾向となっています。



台湾からのチャーター便や国際定期便の就航により、平成30年度末には花巻空港の国人宿泊者数が大幅に増加しました。令和元年度には外国人宿泊者の割合が25%に達し、地域での存在感が増しました。

しかし、令和2年度からは新型コロナウイルスの影響で外国人宿泊者がほぼゼロになりましたが、令和5年度には平成30年度を超える外国人の割合までに回復しています。

コロナ前とコロナ後の国別宿泊者数の推移



コロナ前の令和元年度とコロナ後の令和5年度の国別宿泊者数を見ると、中国と台湾の宿泊者数が回復しておらず、国別割合でも中国の割合が大きく減少している。

3. 第4期八幡平市観光振興計画

第2次八幡平市総合計画後期基本計画（令和3年度から7年度）

施策「おもてなしの観光による交流人口の増加」

- ・観光客を受け入れるためのプラットフォームの組織化
- ・地域と観光の融合による観光客の増加
- ・海外からの誘客に対応できる観光案内板等の整備
- ・多言語化の映像配信、SNSによる宣伝効果
- ・スポーツ合宿等の誘致を図り、合宿宿泊者の増加
- ・各種スポーツ大会、学会などの招致及び宿泊施設やスポーツ施設、さくら公園イベント広場などの市内施設を有効活用
- ・1年を通じて宿泊訪問できる態勢づくり
- ・教育旅行の誘致、体験型・参加型メニューの充実による宿泊者数増
- ・将来に観光客となり得る子どもたちの訪問の強化
- ・トレッキング、登山など自然散策を安全に楽しめるための情報発信
- ・ガイドと連携した商品づくり
- ・スノーリゾート地として、スキーのほか、雪体験、スノーシューなどの様々な体験の推進など、通年で楽しめる観光資源の整備
- ・八幡平ドラゴンアイなどの既存の観光資源の活用ほか、新たな魅力や需要を発掘
- ・観光客の満足度や消費額を高めていき、持続する観光地を目指す

八幡平市第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 （令和2年度から6年度）

プロジェクト⑪観光客おもてなし体制強化プロジェクト

1. 持続可能な観光地づくりを目指す「サステナブルツーリズム21」の実践
2. DMOを活用した調査分析と地域全体での観光戦略策定
3. 地域資源や伝統文化等を活かした感動体験メニューづくりの企画・実施
4. 学習・体験・合宿など教育旅行の誘致促進
5. 外国人観光客誘致に向けた海外プロモーション展開
6. 外国人人材を活用した観光地の魅力化と案内などの情報発信強化
7. 八幡平温泉郷の再魅力化施策の企画推進
8. ナイトタイム観光の満足度の向上とペンション等の継業推進
9. 誘客促進に向けた二次交通網の整備

市政運営の最上位計画である「第2次八幡平市総合計画後期基本計画」に掲げる「おもてなしの観光による交流人口の増加」の実現に向けた実施計画として位置付けるものです。

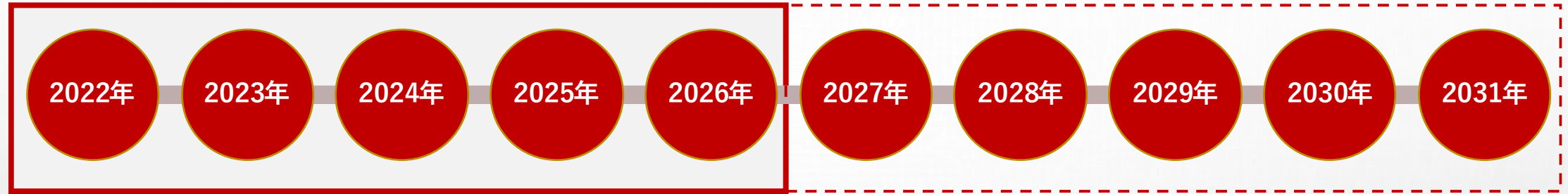
また、八幡平市第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略では、持続可能な開発目標（SDGs）と取組の関係を位置付け、本市の地熱や自然環境といった、SDGsの目標に資する持続可能資源を最大限に活用した施策を推進するものとしています。

第1期～第3期
八幡平市観光振興計画

第4期八幡平市
観光振興計画

○計画期間

計画期間



施策によっては、10年先を見据えて目標設定を実施

観光振興計画が目指している観光を通じた持続可能なまちの実現には、5年を超える長期的な取り組みを含めて、10年後、20年後を意識した計画を策定する必要があります。

そこで、本計画は令和9年（2027年）3月までの5年間に定めますが、施策によっては10年後の目標設定も行い、中長期的な視点での計画策定を行います。

また、観光振興計画は環境変化や各施策の進捗状況を踏まえ、再検討するステップを設けます。実施した取り組みを振り返り、見直しを行うことで、目標の実現のためにより効果的な計画の推進を行います。

○ビジョンとテーマ、アクションプラン

八幡平市観光の将来像（長期的なビジョン）

**日本の美しい四季と暮らし
ナショナルパーク八幡平**

本計画のテーマ

**自然を未来につなぐまち
Natural Resort 八幡平**

八幡平市観光の将来像として「日本の美しい四季と暮らし ナショナルパーク八幡平」という長期的なビジョンを掲げました。このビジョンを引き継ぎ、実現するために、計画期間内におけるテーマと、それに基づくアクションプランを策定しました。

このテーマは、「観光を通じて実現する持続可能な八幡平市の姿を、ターゲットとなる人たち（来訪者や市民）に観光を通じてどんなことを体験してほしいか、感じてほしいかという視点で示した言葉」です。

○アクションプランの全体像

テーマを実現、体現するために、次の3つのアクションプランと9つの施策を設定しました。

I.「高めて、広げる」(豊かな自然の中で得られる刺激的・洗練された体験の拡充)

施策① 外国人観光客の受入促進

施策② 自然を楽しむアドベンチャーの推進

施策③ 国際競争力の高いスノーリゾート形成の促進

施策④ スポーツツーリズムの推進

II.「伝えて、育む」(八幡平市の歴史風土や自然環境の魅力発信と持続・発展)

施策⑤ 地熱等の資源からSDGs、サステナビリティを学ぶ

施策⑥ 地域の歴史的・文化的資源、食文化の活用

III.「つなぐ」(八幡平市観光全体を推進する取組み)

施策⑦ 豊かな観光資源を次世代につなぐ

施策⑧ 交通アクセスの拡充

施策⑨ 観光推進体制の強化

4. インバウンド回復に向けた新たな取り組み

観光庁では、今後のインバウンドの本格的な回復を見据え、消費額増加、地方への誘客をより重視するという観点から、訪日旅行における消費単価が高い傾向にある高付加価値旅行者の地方への誘客を促進する目的で「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり モデル観光地」に八幡平エリアが選定されました。



観光庁

Japan Tourism Agency Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和 5 年 3 月 28 日

観 光 庁

高付加価値旅行者の誘客に向けて集中的な支援等を行う

モデル観光地11地域を選定しました

～地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業～

観光庁では、今後のインバウンドの本格的な回復を見据え、消費額増加、地方への誘客をより重視するという観点から、訪日旅行における消費単価が高い傾向にある高付加価値旅行者の地方への誘客を促進することとしています。

この度、令和 4 年 8 月 19 日付で公募を行った「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり モデル観光地」について、総合的な施策を集中的に講じるモデル観光地を選定しましたので、お知らせします。

【1. 事業概要】

訪日外国人旅行者は2019年に3千万人を超えていたものの、訪日外国人旅行消費額は4.8兆円（2020年目標8兆円）であり、取組の強化が必要です。

いわゆる高付加価値旅行者¹は、訪日外国人旅行者全体の約1%（29万人）に過ぎないものの、消費額の約11.5%（5,523億）を占めていました。ただし、大都市圏での買物消費等が多く、地方での消費が少ないことから、地方への誘客を促進することにより、地方創生へ貢献することが期待されます。

このため、昨年5月に高付加価値旅行者の地方への誘客に必要な課題や取組を、ウリ（高付加価値旅行者のニーズを満たす滞在価値）、ヤド、ヒト（地方への送客、ガイド、ホスピタリティ）、コネ（海外高付加価値層とのネットワーク、情報発信）＋アシの5つの観点から、「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくりアクションプラン」として取りまとめました。

この度、本アクションプランに基づく集中的な支援を実施する「モデル観光地」を決定しましたので、お知らせします。

【2. 選定されたモデル観光地】

計 11 地域（別紙 1 参照）

【お問合せ先】

観光庁 国際観光部 国際観光課

担当：佐藤、櫻本、曾我

代表：03-5253-8111（内線：27-402、27-412）直通：03-5253-8923

メールアドレス：hqt-luxury-jta@mlit.go.jp

注：メール送信の際は「★」記号を「@」記号に置き換えてください。

¹ 地域消費 100 万円以上の訪日外国人旅行者

地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり モデル観光地 11地域



令和5年度にマスタープランを策定、令和6年度からマスタープランに基づいた調査業務がスタート

施策番号	施策内容		取組内容	調査結果の概要
1	ターゲット層を想定したブランディングと世界で戦うための「ウリ」の精査		①ウリの精査	➢ 戦略素材（60点）を抽出し、参加条件等を整理。
			②国内ナショナルDMCフィードバック	➢ 戦略素材に定性／定量評価を実施。 ➢ 醸造所見学、チャグチャグ馬コ、マタギ体験、花輪ばやし、大日堂舞楽観覧、スノー（シューハイク、ファーストラック、CATツアー、雪上アクティビティ）、ブナの森ハイクが高評価を得る。
			③FAMツアーによる検証	➢ ゴルフ、ウェルネス、クラシックカーに関するツアーを実施。 ➢ 素材の評価は高いが、販売に向け「東北」の知名度向上が急務。
2	ターゲット国での検証・商品化①	食の高付加価値化と誘客方法の開発	①郷土料理の商品化	➢ 八幡平市商工会「四季の食研究所」事業委員会で郷土料理素材の冷凍試作を実施し、『八幡平御膳』の商品化を検討した。
			②ガストロノミーイベントと宿泊の連動性の検証	➢ 2025年1月24日／25日@インターコンチネンタル安比高原リゾートで開催。合計47名が参加。ウリの磨き上げを継続開催。
3	ターゲット国での検証・商品化②	サイクルツーリズムに係る調査	①-a 八幡平ヒルクライムを通じた地域課題の抽出と国内外先進事例調査	➢ 500名が参加した大会の現地調査による課題抽出。 ➢ 地域魅力を発信するランドオペレーター、他地域ネットワーク、受入体制（ヤドとの連携、200名が前日受付）、レース参加者以外のプログラム、地域ブランド価値の造成が課題。
			①-b サイクルツーリズム拠点整備に関する調査	➢ ナショナル・サイクルルート構築基準に照らして既存インフラを確認。エリア計画の立案（八幡平市）による面的拡大を図る。
		トレッキングツーリズムに係る調査	①「みちのく潮風トレイルの高付加価値化」長期滞在を促す高付加価値化に係る調査 ②高付加価値実証／検証のためのモニターツアー実施	➢ モニターツアー（参加者4名）を11月24日～11月27日に開催。 ➢ 潮風トレイルは、エリア独特のダイナミックな自然を堪能できるトレイル、地域とのつながりを感じるところが特に高い評価を受けた。
		ガイド制度の活用によるツーリズムに係る調査	①「ガイドのみが許可される自然探索」高付加価値商品化に向けた調査 ②長期滞在プログラム化 ③高付加価値実証／検証のためのモニターツアー実施 ④八幡平市版ガイド資格制度に係る調査	➢ モニターツアー（参加者4名）を11月20日～11月23日に開催。 ➢ マタギツアーは、熊狩りなどは当初忌避感を持った参加者もいたが、きちんと説明を受けることで独特の宗教観やサステナブルな考えに共感するようになったとのフィードバックが多かった。 ④ガイド協会（仮称）を通じた職能普及・品質保証・安全が急務。 「ガイド制度は地域事情に則して構築すべき」（知床ネイチャーオフィス松田社長）

令和6年度は、八幡平エリア及び周辺地域のモデルプランの実証を行い、販売に向けた準備を実施

八幡平エリア及び周辺地域 モデルプランA

【様式2】

1日目

【テーマ・ターゲット・価格帯】

- ・八幡平エリアのコアバリュー「スノー」を体験するために、雪アソビの体験をハイライトに、エリア内の自然や地域工芸の制作現場を訪問
- ・メインターゲットであるアジア市場の「リアル日本」に関心の高い層の好奇心を満たす文化体験や、豊かな自然を活かしたガストロノミーを提供
- ・想定する販売価格帯は2泊3日、2名で70万円程度（ヘリコプター料金は別途見積）

JR盛岡駅

わんこそば体験（盛岡市）

東屋にて「わんこそば」で楽しい夜の始まりを盛り上げて、グループの結束を高める。



玉川温泉（秋田県仙北市）

自然研究路で火山活動を見学、ガス噴出を体験。冬季道路閉鎖でアプローチが困難なエリアに高付加価値アシ（ヘリコプター）で移動。



花輪ばやし体験（秋田県鹿角市）

ユネスコ無形文化遺産の花輪ばやしの太鼓演奏と踊りの手ほどきを受け、グループ全員で出来栄を披露する。名産きりたんぽうりも体験。



ANAインターコンチネンタル安比高原リゾート（ヤト）

東北地方で唯一ミシュランホテルに認定されたホステル・カクティに包まれ、米園ミシュランシェフとコラボしたローカル・ガストロノミーを味わう。



モデルプランのポイント（高付加価値旅行者に訴求する点）

1. 十和田八幡平国立公園の大自然が育む景観美と地球の恵み（火山）、厳しい自然の中で生活する人々の暮らし・祭りを体験することで、「リアルな日本・北東北」を体験する。
2. コアバリューを多様なアクティビティ（雪アソビ）を通じて体験し、エキサイティングな時間をもつ。
3. 都会にない新鮮な空気を思いっきり吸い込み、「生命」を感じる。
4. 地熱染めの体験では、アドリエにて作者自身の解説のもと制作し、同じものはふたつとない偶然性とサイケデリックな色合いを持ち帰る。
5. 宿泊は、東北地方で唯一ミシュランホテルに認定されている「インターコンチネンタル安比高原リゾート」でゆったりとした時間とローカル・ガストロノミーを楽しむ。

高付加価値旅行者のニーズに対応する移動手段の提供（アシ）

1. 盛岡地区（もしは花巻空港）から玉川温泉への移動はヘリコプターを使用。冬季の道路閉鎖地区でも、最短時間でシームレスな移動を提供。



滞在価値を高めるガイドやアテンダの提供（ヒト）

1. 海外居住経験がありストーリーテラー（英語、仏語、中国語）
2. アクティビティのフカ「遊び」を提供



八幡平エリア及び周辺地域 モデルプランC

【様式2】

1日目

【テーマ・ターゲット・価格帯】

- ・マスタープランに記載する「日常」という非日常の体験というコアバリューを体験するために、マタギの日常を通じて、その世界観を体験する。
- ・メインターゲットであるアドベンチャートラベル市場における「アドベンチャー集中型自然・文化探検者層※1」に訴求する。適度な冒険感と知的探求を提供する/セレクトバグジュアリーもターゲットとなる
- ・想定する販売価格帯は3泊4日、2名で30～40万円程度

角館駅

角館 武家屋敷 青柳家

ポルシェ等の高級車による送迎で武家屋敷の青柳家へ。インバウンド向け経験豊富な地元観光客のガイドによる案内で、非公開部屋も利用。往時の武家の暮らしや精神性を感じる。昼食も館内へ頂く



榊細工 工房 八柳

榊細工の工房である八柳にて、榊細工の見学、職人との触れ合いの他、希望者にはワークショップも可能。武士の手内職として発展した工芸品に、武士の実業家ともの先の自然観も学ぶ。



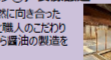
（オプション①）侍体験

道着に着替え、道場での居合や寺での座禅を通じて、侍の精神鍛錬を体験する。

Or

（オプション②）安藤建造

秋田の自然に向き合った食の工芸と職人のこだわりを聞きながら露店の製造を見る。



佐藤/和のゐ（ヤト）

角館で築100年以上の蔵に泊まることのできる「和のゐ」が、角館奥座敷門前の古民家を改装した佐藤に宿る。どちらも、本物であること大切に、ラグジュアリーな設備を備える貴重な高付加価値と満足できる宿泊施設である。



ゲストの関心に合わせては、数回にわたってガイドを依頼する

モデルプランのポイント（高付加価値旅行者に訴求する点）

1. 数百年ある武家屋敷の高級感やアドベンチャートラベラーにとって、侍や、またはアニメに現れる日本人の精神性、自然観などは価値である。この根拠にある日本人と自然との関係性、最も原始的な形で今に伝わる阿仁マタギの冒険を通じて体験して、ゲストの自己変革に導く。
2. 旅の玄関口である角館は武家屋敷が立ち並び、武家の内職から発展した榊細工の職人に武家の精神性が息づく。日本人の自然に対する繊細な感覚や自然への尊敬の念があることを確認し、その自然観をより如実に感じられるマタギへの邂逅へ期待感を高める
3. 青柳家の特別な部屋は薪火の、観光施設ではなく工房での榊細工体験、本物の道場による居合の体験、築100年以上の伝統建築での宿泊など、いずれも本物に触れることができる

高付加価値旅行者のニーズに対応する移動手段の提供（アシ）

1. 東京から直達で利便性が高い新幹線で角館へ。航空機ユーザーは大型バスからの送迎も対応
2. 角館駅からは、武家屋敷の青柳家のバイングドライバーによるポルシェ/メルセデスの高級車での送迎（皆も同車での送迎）、武家屋敷内は風情を感じる徒歩か人力車で移動



滞在価値を高めるガイドやアテンダの提供（ヒト）

1. スルーガイドには盛岡のクインラン・ファリス（Go North/Three Geeks）、ケイティ（みちのく）トラベル東北/Three Geeks）、仙北市の東風平（遊名人）他が担当
2. いずれも言語、安全管理（WAF）、旅程管理ができる他、北東北地域の自然、風土、歴史をよく理解し、ハードなアクティビティへの同行も可能
3. ガストの関心に合わせて、臨機応変に対応し、見学時等の補足説明も巧み

八幡平エリア及び周辺地域 モデルプランB

【様式2】

1日目

八戸駅/三沢空港

ランチ

スタート地点の熊鷹近の丘の上には、オーシャンビューの海鮮レストランやカフェが存在する。ゲストの好みに応じてレストランを選択



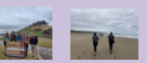
熊鷹シーカヤック/SUP

八戸駅でタクシーでスタート地点の熊鷹へ。神社に参拝した後は、湖風トレイルを海から眺むシーカヤックへ。軽めのアクティビティでアイスブレイクにもなる。



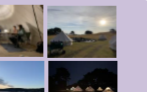
湖風トレイル（熊鷹～標差海岸）

八戸駅でタクシーでスタート地点の熊鷹へ。神社に参拝した後は、湖風トレイルを海から眺むシーカヤックへ。軽めのアクティビティでアイスブレイクにもなる。



標差海岸キャンプ場 グランピング（ヤト）

美しい芝生の海岸に、整備されたグランピング施設で滞在ができる。食事はシェフが季節毎の旬に合わせて、アウトドアで調理する地元食材のメニューが提供される。宿泊も設備を備えながら、ゆっくりと過ごすことができる



モデルプランのポイント（高付加価値旅行者に訴求する点）

1. ターゲットとなる「体験詰め合わせ挑戦者」のアドベンチャートラベラーに対して、トレッキングだけでなく、カヤックやSUPなども含めた体験の提供ができる。
2. 都市部である八戸から徐々に美しいリアスの海岸線に変わり、松原が広がっていく。古い展望台の遺跡があったり、このコースでは珍しい砂浜を駆け回り変化も多くの飽きさせない。アツグウも緩やかで湖風トレイルのスタートとして、肩慣らしにちょうど良い。
3. 宿泊施設はキャンプ場であるが、グランピング施設として整っており、美しい芝生とサーブされる食事がラグジュアリーな客層にふさわしい。

高付加価値旅行者のニーズに対応する移動手段の提供（アシ）

1. 八戸までは新幹線のグランクラス、空港利用の場合は三沢空港を使い、そこからはアルファードのタクシーで移動する。
2. 基本的には徒歩の移動であり、要所要所で鉄道やタクシーを使う。ツアーを一貫して貸切バスを使わないのは、環境意識が高いゲストが貸切バスを並走することを嫌がるため。
3. トイレ中の荷物を運搬するサービスを利用する。

滞在価値を高めるガイドやアテンダの提供（ヒト）

1. スルーガイドには盛岡のクインラン・ファリス（Go North/Three Geeks）、ケイティ（みちのく）トラベル東北/Three Geeks）、根庭和歌子（みちのくトラベル東北）他が担当。
2. いずれも言語、安全管理（WAF）、旅程管理ができる他、北東北地域の自然、風土、歴史をよく理解し、ハードなアクティビティへの同行も可能である。
3. ガストの関心に合わせて、臨機応変に対応し、見学時等の補足説明も巧みである。